

子どもたちの遊ぶ姿を見ていると、自分も楽しい

木村さんと青少年健全育成の活動との関わりは、昭和35年に子ども会の役員を引き受けたことにかのぼります。

「子どもが好きですね。特に子どもたちを集めて遊ばせていると、みんないきいきとしていて自分も楽しくなります。子ども会の活動を通して、もっと子どもたちのために、いろいろしてあげたいなと思っていたので、いつの間にか、民生・児童委員や少年補導員、保護司などを引き受けていました」と優しい笑顔で話す木村さんは、

「今の子どもたちは、集団で遊ぶ機会が少ないでしょう。家でテレビゲームなどをしているようですが、頭でっかちになり、社会性が身に付かないのではと心配になります。子どもは、集団の遊びのなかから、社会性を学び、ルールを身につけます。子どもの数も少なくなっていますので、地域の大人もすっかり子どもたちの環境を考えてあげなくてはいけないと思いますね」と木村さんは、子どもたちに対する大人の役割について話してくれました。



▲イベント会場の巡回指導に向かう少年補導員のみなさん（登別グリーンピア・サマーフェスティバル）

もっと子どもたちと向き合ってほしい

「少年補導員になった昭和30年代に比べると、ずいぶん豊かな社会になりました。でも非行は減りませんね」と真剣な眼差しで話す木村さんは、これまで少年補導員や保護司などの活動を通して、たくさんの方の非行少年の更生に努めてきました。

「問題児といわれる子どもたちの多くが愛情に飢えているように感じます。特に母親の愛情に。いつの時代でも親の愛情としつけが大切。大人は大人のことばかりに目を向けていないで、もっと子どもたちと向き合ってほしいですね」と木村さんは、子どもとの触れ合いの大切さを説いてくれました。



KIRARI

き むら さが ろう
木村三郎さん(美園町)

今年6月、木村さんは、多年にわたる少年補導員として非行の防止に尽力されたことが認められ、警察庁長官表彰の全国少年補導功労者『荣誉金賞』を受賞されました。

少年補導員や子ども会育成連絡協議会などの活動を通して、子どもたちの健全育成に取り組んでこられた木村さんに、活動や子どもたちへの思いなどを聞きました。

いつの時代でも、親の愛情としつけが大切です

大正15年登別市生まれ。78歳。
昭和16年、鉄道省（後の日本国有鉄道）に入り、昭和57年4月に退職するまで、胆振管内の駅に勤務。そのかわら、北海道子ども会育成連合会会長や登別地区保護司会会長などの要職を務め、青少年の健全育成を中心に幅広く活動。現在、室蘭警察署少年補導連絡協議会会長、登別市子ども会育成連絡協議会顧問。

